

平成29年度 事後事務事業評価シート

事業名	子育て支援高校生通学費等還元事業	担当課・グループ	作成者（職・氏名）
		町民福祉課・子育て支援グループ	課長 木戸 知二

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成28年度	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度	平成37年度	町	一般	3	2	1	1005
事業の性質	法令に基づかない自主的事业			条例等の有無		有		
根拠法令・例規計画等	厚真町子育て支援医療費等還元事業実施要綱							
総合計画	基本目標	人が輝くあつま						
	基本施策	子ども・子育て支援の充実						
	施策項目	子育て支援の充実						
	※総合戦略	人が輝くあつま・健やかで安心なあつま—子ども・子育て支援の充実— あつま版ネウボラによる出産から子育てに至る切れ目のない支援						

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	町外の高校に在学する生徒を持つ保護者に、通学費等の一部を「子育て支援厚真町金券」で還元し、保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、町内での購買意欲を高めて地域経済の活性化を図る。
事業の内容 (手段・方法等)	町外の高校に在学する高校生の保護者が負担した通学費等について、在学証明書の提出により、長期休暇を除く10カ月上限に1カ月あたり5,000ポイントを付与し、1ポイント1円で「子育て支援厚真町金券(額面500円)」に交換し、保護者に還元する。
対象	町外の高校に在学する高校生
成果目標	子育て支援の充実を図ることによって、町外から子育て世代の移住者の増と地域経済の活性化につながる。

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		26年度実績 (評価対象前々年度)	27年度実績 (評価対象前年度)	28年度実績 (評価対象年度)	29年度予算 (評価実施年度)	適用
総事業費		0	0	1,141	4,609	
事業費		0	0	710	4178	
特定財源	国・道支出金					
	町債					
	その他				4,000	ふるさと応援基金繰入金
一般財源				710	178	
人件費 (@4,000*時間数)				431	431	事務事業時間配分計算表(別紙)により算定
事業費の 主な内訳	旅費					
	需用費			119	178	
	役務費					
	委託料					

	扶助費			591	4,000	
--	-----	--	--	-----	-------	--

② 実績・成果

指標名称			26年度(実績) (評価対象前年度)		27年度(実績) (評価対象年度)		28年度(見込) (評価実施年度)		37年度 (目標年度)	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	高校生通学費等還元金券発行数	目標					3,750	枚		
		実績					1,550	枚		
		達成度		%		%	41.3	%		%
	高校生通学費等還元ポイント付与数	目標					1,875,000	P		
		実績					975,000	P		
		達成度		%		%	52.0	%		%
主な成果指標	高校生通学費等金券換金額	目標				1,875	千円			
		実績				591	千円			
		達成度		%		%	31.5	%		%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する									

4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等が公平かつ妥当か?	A	保護者が負担する通学費等を町内商店等で使用できる金券で還元しているため、子育て世代全般を対象としており、金券についても商工会に加入しているほとんどの商店が取り扱っているため、公平性は保たれている
有効性	期待された成果が得られたか?	B	事業開始年度ということで、ポイント付与率が52%と低かったが、子育て世代の経済的負担軽減を図ることにより、若い世代の定住、移住促進と町内での買い物誘導し、地域経済の活性化が図られており有効である
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か?	A	通学費等を直接金券で還元しているため、子育て支援策、町内商店の活性化が図られることから費用対効果は適正である

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 (現状維持)	サービス	継続 (現状維持)	方向性	現状維持
理由	町外の高校に在学している場合、通学費等の保護者負担も大きいことから、今後は中学校卒業生に事業の周知を図るためのチラシ等を配付するなど、事業を継続していきたい				
課題および改善提案	子育て支援カードのポイントを金券に交換する作業や金券取扱店から町への請求事務に手間がかかりすぎるため、住民や商店の方の待ち時間が長く迷惑を掛けている。 将来的には、町内で新たなポイントカードシステムが導入された場合、事業者として参加していきたい。				

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価 (本欄は、理事者ヒアリング・内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください)

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
意見					

7 外部評価委員会評価結果

予算	継続（現状維持）	サービス	継続（現状維持）	方向性	現状維持
附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> 対象者全てが利用できるよう、PR方法を工夫すべき。 				
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 経済波及効果を視野に入れたうえでポイント還元としている点はユニークであるが、還元までの流れが複雑すぎて、受益者も単に経済的恩恵を受けた以外の印象を受けないのではないか（「厚真町は子育て支援に力を入れている」と実感してもらえないのではないか。） 				

評価に対する町の考え方

- ・ H29前期においてはH28年度に比べて対象者の還元実績が向上したため、周知の効果が上がっていると考えられます。
- ・ H29年10月のICカード導入によって事務及び還元までの流れが簡略化されたため、以前より利用しやすい形になっています。
- ・ 今後は中学校卒業生に事業の周知を図るためのチラシ等を配付し、より一層の還元率向上に努めます。